

サトーHDのCO₂抑える素材 味の素、食品外装に採用

サトーホールディングス（HD）は、焼却時の二酸化炭素（CO₂）発生を抑える独自素材「エコナノ」が味の素の調味料のパッケージに採用されたと発表した。エコナノは産業資材などで採用が増えているが、食品の外装用では初めて。年間44トンのCO₂削減につながるという。エコナノは燃やした際

に出た炭素をまとめて、一袋に採用した。エコナノが入った接着剤を、外生を抑える独自素材「エコナノ」が味の素の調味料のパッケージに採用されたと発表した。エコナノは、宅配便のラベルの接着剤や各種包装材など3万7000社以上で採用されている。

ユーブ（8個入り）の外袋材が全てエコナノ入りとめて炭化させることで、CO₂の発生を減らせる。入前よりCO₂排出を25%以上抑えられる。エコナノはサトーHDと東京理科大の阿部正彦教授らが共同開発した。「鍋キューブ」のパッケージに採用した。エコナノは、宅配便のラベルの接着剤や各種包装材など3万7000社以上で採用されている。全7種ある鍋キ